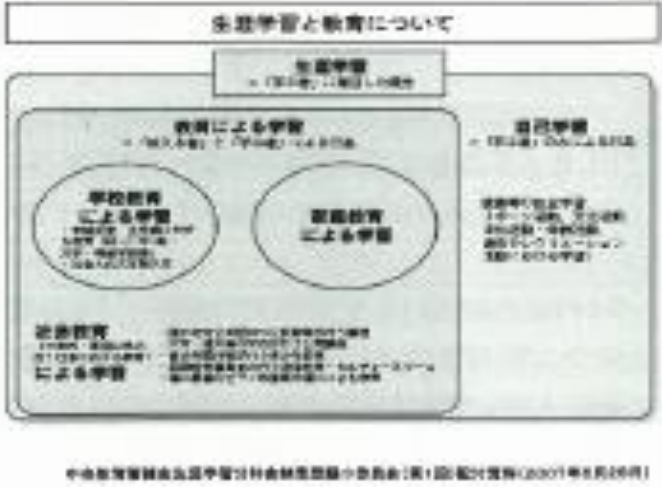
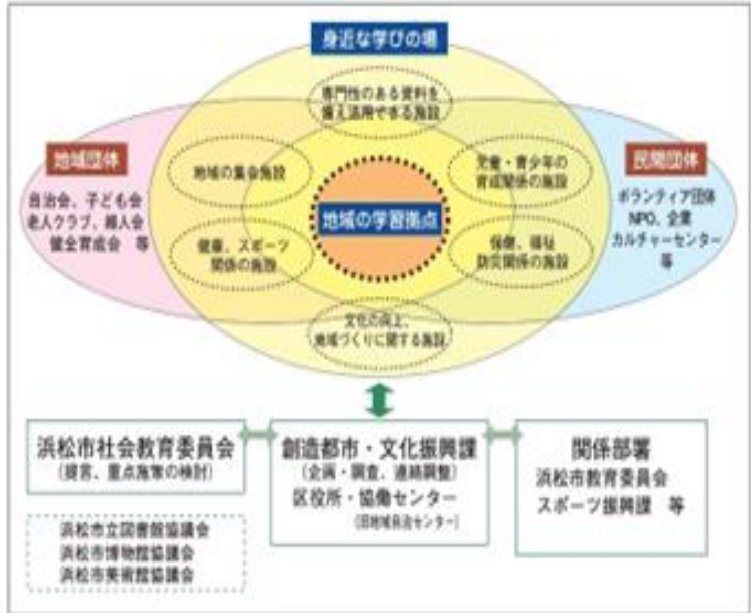


No	該当ページ	内容	計画書案への反映等
1	施策全般	様々なニーズに応じた取組と謳いながら、社会的包摂に関する取組が乏しいと感じる。行政内部の評価シートにおいては様々な事業が展開されています。その学ぶ機会を地域におろしている事業があるのでは。この第2期では「年齢、性別、言語や文化の違い、障がいの有無にかかわらず」という立場で生涯学習を進めていくことから、具体的な取組が表現できればなおよいのではないかと。しかし現状の地域づくりの中へ進めていくことは難しいことかと思うので、その方向が少しでも示されたら良いと思います。	施策に関する具体的な取組は、特定の分野に偏ることがないよう、子育てや人権、スポーツ、文化芸術等幅広くピックアップして掲載しています。「社会的包摂」という言葉として表に出ていない部分も、その考え方は全ての施策に盛り込まれていますが、見せ方等について引き続きご審議いただきたいと思います。
2	施策全般	図書館・住民センター・市民プラザなど施設の重要性には触れられているが、「学びの拠点としての今後のビジョン」は不足しているように感じました。	施設の在り方については個別の計画にて言及し、今後の時勢に応じて見直していく形となります。
3	コラム	できればですが、他ページとあしらいをかえ、小休止的な役割を持たせられると良いと思います。	コラムのページのみ、ページ罫線を挿入しました。
4	第2章以降	第2章以降は、以下の視点が不十分なのではと感じました。 1.若者・子どもの参画 「こどもまんなか社会」の理念を具現化するには、子ども・若者自身が学びの主体・担い手・企画者として関わる仕組みが必要です。アンケートなどの「対象者」にとどまらず、「意思決定プロセスへの参加」を意図することが重要になってきます。「こどもまちづくり会議」や「こどもまなび会議」の開催、地域学校協働活動との連携による中高生の活躍促進などが示されると良いのではと感じました。 基本方針1または3に、「若者による企画・運営・表現活動の支援」や「ユースボード的な仕組み」などを明記する等。 2.住民自治との連動施策（自治協議会との接続） 自治基本条例に位置づけられた自治協議会は、地域における実践主体であり、「学びを地域づくりに生かす」にはこの接続が不可欠です。 例えば、自治協議会の「地域づくり計画」との連動強化、各計画で生涯学習枠の設置、防災教育支援等。 3.社会教育人材（社会教育士等）の育成・活躍促進 令和6年の中央教育審議会答申では「社会教育人材の活躍促進」が重点項目に位置づけられました。市民活動支援センターや図書館、地域学校協働活動などにおいて、社会教育士の称号があることで、更なる活動の展開や発展が期待できます。しかし、現状においては社会教育士資格保有者の認知・活用が不足しております。 社会教育士等の専門性の社会的認知向上、行政・地域団体とのマッチングによる実践機会創出、中間支援人材による地域課題の可視化と橋渡し機能の強化がされるなどの効果が期待できます。 4.外部評価・第三者視点の導入 PDCAの「C（評価）」を実効的に行うには、行政内部だけでなく、市民や外部有識者の視点を加えることが不可欠です。計画への信頼性と市民参画の両立にもつながります。 例えば、中間年に公開評価会議やフォーラムを開催する（委員構成：市民代表、教育関係者、社会教育士、NP0など）。 5.学習機会にアクセスする地域差（地理・交通）の克服 移動困難・交通手段の課題が施策化されていないと思いました。基本方針1に「移動支援やサテライト会場・出前講座の整備」等の地域差是正策を追加する等。	1.若者・こどもの参画 基本方針1-施策①②、方針3-施策①②③等にそのエッセンスは含んでいるものと考えていますが、引き続きご審議いただきたいと思います。 2.住民自治との連動施策 基本方針2-施策①③④、基本方針3-施策①②③等にそのエッセンスは含んでいるものと考えていますが、引き続きご審議いただきたいと思います。 3.社会教育人材の活躍促進 基本方針1-施策③、基本方針2-施策③等を通じて社会教育人材の育成・活躍促進は包含出来ているものと考えています。 活躍促進を図らなければならないのは社会教育人材だけではないため、出来る限り偏りが無い記述にしています。 社会教育人材の活躍促進は国において度重なる議論がなされており、大変重要なことであると認識していますが、生涯学習基本計画としては全般的に幅広い内容を掲載する必要があるため、社会教育に関する部分が色濃く出過ぎないようにバランスを取っています。 4.第三者視点の導入 審議会や生涯学習関連事業の実施部署においてそれぞれ外部評価を実施する仕組みとなっています。 5.学習する機会にアクセスする地域差（地理・交通）の克服 地域差があることについては、“様々なニーズ”の中に包含しているものとして整理しています。 基本方針1-施策①や施策④を通じて地域差の課題に対応していく考えを示しています。
5	1	文末「社会全体」→「社会と地域」、 「高まっていきます」→「向上が図れます」	「社会全体」の中に地域も含むと考えるため現状のままとしています。 また、このページは市の施策に関する説明ではなく全般的な概念の説明となるため、こちらから仕掛けるニュアンスではなく、自然発生的なニュアンスの「高まっていきます」という表現を用いています。

6	1	概念図『学習者個人が自分の意思と責任で学ぶ』 →個人学習は『学習者自身の意思で学ぶ』ことだと思います。個人（1人）であることを強調してしまうと、例えば友達とサッカーの練習をする学びはどこにも当てはまらなくなります。また、個人学習における「責任」は無い（他者に成果を求められることはない）と思いますので消したほうが良いと思います。	「責任」という文言及び「個人でのスポーツ」という例を削除し、「友人と一緒にスポーツをする」という例を加えました。 個人学習とそれ以外の学習は”特定の団体や組織に属して行うかそうでないか”という考え方で整理しており、「友達とサッカーをする」という場合は”個人的なつながりで行う”という意味において個人学習に含むものと考えます。
7	1	概念図『個人でのスポーツ』上記と同じ理由で、他の例と合わせるのであれば『スポーツの練習で技術を得る』などに修正が良いと思います。	「個人でのスポーツ」の例そのものを削除しました。
8	1	概念図『eラーニング』の注釈は必要だと思います。	注釈を入れると1ページ内に収まりにくくなること、また、あえて「eラーニング」を例示する必要性もないため削除しました。
9	1	概念図 社会教育による学習の例ですが、今回はあった『国や地方公共団体』の視点は必要だと思います。	「企業が行う研修」を「国、地方公共団体、企業等が行う研修や講座」に変更しました。
10	1	生涯学習の概念図 ○個人学習について ・特定の組織等によらず、学習者個人が自分の意思と責任で学ぶこと という文章は、何を参考にしているのでしょうか。「自分の意志」は理解できますが、「責任」で学ぶという表現はあまり聞いたことがありません。ここでいう個人学習というのは一人かどうかではなく、教育に囚われない「自己学習」のことを差しており、グループで活動することも含まれています（サークル活動、文化活動、ボランティア活動などもここに入ります）。そのように意味において、個人でのスポーツという表現はおかしいと思います。国資料に則るなら、「個人学習」ではなく「自己学習」が良いと思います。 ○社会教育による学習 ・行政が行う講座や研修事業も必要ではないでしょうか。	・「責任」の文言を削除しました。 ・「個人でのスポーツ」、「観劇、鑑賞」、「eラーニング」の例示を削除しました。 ・個人学習とそれ以外の学習は”特定の団体や組織に属して行うかそうでないか”という考え方で整理しています。 ここでの個人という言葉は単に”1人”という意味ではなく、”個人的なつながり”という意味も含むものと考えており、そういった意味で、「友人と一緒にスポーツをする」という例示を追加しました。 なお、「個人学習」という言葉については3/26の第7回基本計画審議会にてご意見があり、その場で概ね合意が得られていたため用いています。 ・「企業が行う研修」を「国、地方公共団体、企業等が行う研修や講座」に変更しました。
		（参考：中央教育審議会生涯学習分科会資料） 	
11	2	下から3行目末～「地域全体の」→「地域と社会の」、 「ウェルビーイング向上」→「ウェルビーイングの向上」	市が計画を策定する目的を記載するページであるため、丹波市の地域づくりに繋げるという意味で「地域全体の」という表現を用いています。 「ウェルビーイング向上」の文言は、基本理念のイメージ図に記載されている「ウェルビーイングの実現」という表現に変更しました。
12	2	下から3行目末～『地域全体のウェルビーイング向上』→『地域全体のウェルビーイング』の”向上』が必要だと思います。	基本理念のイメージ図に合わせて「ウェルビーイングの実現」という表現に変更しました。
13	2	下から3行目末～共生社会の実現→ウェルビーイング向上という流れになっているが、ウェルビーイングの向上により共生社会が実現されるのでは。	お互いを認めあうことができる共生社会を築かないことには幸福にはなれないと考えています。現状の流れが適切かと考えています。
14	2	下から2行目「ウェルビーイング向上」→P45、47には「ウェルビーイングの実現」とある。	「ウェルビーイングの実現」に変更しました。
15	2	本文上から6行目 「ICT*の進展」→「ICT化*の進展」	「デジタル化」に変更しました。 用語解説を入れてまで、あえて「ICT」という言葉を用いる必要性もないと判断しました。
16	5	『策定プロセスそのもの』が生涯学習の場であるかもしれませんが、あえて書くのは誇大に感じます。	”職員、市民双方が生涯学習に対する意識を高められるように”という想いを込めて、あえて記載したいと考えています。

17	6	○中央教育審議会 本文上から7行目「社会教育人材部会にて」→「社会教育人材部会において」	「社会教育人材部会において」に修正しました。
18	8	空白があるので、まなびの里づくり協議会のことなどもう少し加筆できないか。	全体的に文量は削減し読みやすくしたいと考えているため、文章は加筆せず空白部分には写真を挿入しました。
19	9	①コラムの上から7行目「ウェルビーイングが高い」→高いという表現で良いのか。 ②9行目「とも言えます」→「と言えます」では。	①国の教育振興基本計画において「ウェルビーイングを高める」という表現が用いられているため、「高い」という表現が適切と考えます。 ②「と言えます」に修正しました。
20	10	「丹波市の生涯学習を取り巻く現状」に掲載されている内容が、やや一般論になっているように感じました。もう少し丹波市の現状に、フォーカスを当てる必要があるのではと感じます。 公民館の廃止やとその後の展開、市長部局に生涯学習部門が置かれていることなどにも触れておく必要があると思います。	全国共通の課題に言及すると、ある程度は一般論に寄ってしまうため、新たな視点があればぜひご意見いただけると幸いです。 公民館の廃止や市長部局に生涯学習部門が置かれていること等は平成27年の第1期計画策定時点で既にそうであったため、“昨今の現状”として記載するのはそぐわないと考えました。
21	10	P10『また、「人生100年時代」とも言われる長寿社会の到来により、高齢者のライフスタイルや学習のニーズが多様化しています』と述べられていますが、「人生100年時代」というのは、高齢者だけでなく現役世代・子どもたちにも関係すること（例：学びなおし、リカレント教育、リスキリング、多様な学び等）なので、高齢者に限定した表現は見直した方がいいのではと思います。	1つの文章の中に多数の要素が盛り込まれると結果として読みにくく、理解が進まないため、あえて（1）では高齢者に限定して論点を絞っています。 現役世代の学びなおし等については（2）で言及することとしました。 「人生100年時代」の用語解説についても、文章に合わせた説明に簡略化しています。
22	10	人口について、P13に第1期計画時の人口減少等の記載があるので、ここでは平成7年人口、第1期時の人口、現在の人口を書いては。	教育振興基本計画と同様の記述にし、整合を図っています。
23	10	（4）単身世帯や両親共働き世帯→第1期時と状況に変化はあったのか。	1期の頃から引き続き増加しているため、「さらなる」と加えました。
24	10～12	10ページから11ページにある注釈を12ページにまとめて載せるのではなく、統一するのであれば注釈があったページごとに載せるのが良いと思います。 また、まとめて載せるのであれば、全てのページの注釈を、本冊子の後ろにまとめて載せるのが良いと思います。	それぞれのページ下部に注釈を記載しました。
25	10～12	現状分析の内容が豊富だが、「なぜ学びが必要か」の根拠が分かりにくいと思います。論理展開がやや断片的であり、一般論に偏っているように感じます。	現状分析は客観的に見た現状を記載しており、学びの必要性は策定の目的や現状、課題、理念、施策等を含め、計画全体を通して表現しています。
26	11	（5）の「家族形態の変化」は表現が分かりにくいので具体的にしては。	「単身世帯や両親共働き世帯の増加をはじめとする」と追記しました。
27	11	（8）「複雑化する」という文言は必要か。	年々複雑化しているということが重要なポイントであるため付記しています。
28	13	文字、もしくは図全体が縦に引き伸ばされているように見えます。楕円の形も統一されていないので、図解として見やすいものに修正が必要だと思います。	図を修正しました。
29	17	【丹波市市民活動支援センター】→○丹波市市民活動支援センター	この部分に【市民活動支援センター】と記載していたのは、その下の「まなびのマルシェ」と結びつけるためですが、一般の方から見るとその関連が分からないため、【丹波市市民活動支援センター】の文言を削除し、事業名の後に（市民活動支援センター事業）と付記しました。
30	18	「②主な成果」上から6行目の「丹波市活躍市民」これは、名称ですか？ 事業名ですか？ 誰のことを指しているのでしょうか。	「丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」という補助金の名称となります。
31	19	伝承館のところ。「技術者団体の作品」この団体とはどこを指すのか。	主に「丹波布技術保存会」を指しますが、「技術者団体の作品」という文言がなくても文章は成立するため削除しました。
32	21	推進体制について、この図だけでは説明不足だと思います。文章でも説明が必要だと思います。	元々文章のみであったところ、それだけではイメージしにくいと感じたため図を挿入しました。 元々あった文章は加工した上で各組織の役割表の中に入れました。
33	31	P31 分析『しかしながら、⑤の設問では「社会教育主事や社会教育士などの社会教育コーディネーター人材の育成・養成」を求める割合は少なく、対照的な結果となっています』が追記されていますが、これは単に割合が低いということだけではなく、社会教育主事や社会教育士の存在や役割を十分に知られていないということの結果だと思っています。その点について、誤解がないような表現をお願い致します。 「人と人をつなぐコーディネーター人材」が多く回答されていますが、そのような点は社会教育士の役割そのものであるからです。	こちらの分析欄については、あくまで客観的な事実のみを記載する欄として取り扱うため、文章自体を削除しました。 （「存在や役割が知られていない」ということは推察を含んでおり、それを示す根拠がないため） その上で、P43の課題④に「人材の存在や役割が十分に認識されていない状況にある」という課題を追記しました。

34	31	分析1行目 「人と人をつなぐ」→「人と人とをつなぐ」	アンケート原文のとおりとなるため、現況の表現としました。
35	31	分析 上から3行目「しかしながら、⑤の設問では、『社会教育主事や社会教育士などの社会教育コーディネーター人材の育成・養成』を求める割合は少なく、対照的な結果となっています」とありますが、「しかしながら」という接続詞で前文2行とつないでしまうと、「人と人をつなぐコーディネーター人材」は必要だけれど、その役割を果たすのは社会教育主事や社会教育士ではないと市民は認識している、あるいは理解している、と捉えられてしまうかもしれません。特に「～求める割合は少なく、対照的な結果」という言葉で、そのことが強調されているような印象を受けます。ここは、社会教育主事や社会教育士を市民の皆さんが求める声は少ないと結び付くような分析ではなく、社会教育主事や社会教育士の存在や役割が市民の皆さんにあまり知られていないというニュアンスを出したほうがいいのではないのでしょうか。	こちらの分析欄については、あくまで客観的な事実のみを記載する欄として取り扱うため、文言自体を削除しました。 （「存在や役割が知られていない」ということは推察を含んでおり、それを示す根拠がないため） その上で、P43の課題④に「人材の存在や役割が十分に認識されていない状況にある」という課題を追記しました。
36	36	円グラフの文字の色が図と対応していないので合わせた方が良いと思います。	文字の色は他のグラフ同様に黒にしました。
37	39	表の割合（％）に小数点以下がないですが、他ページと表現を統一した方が良いと思います。	小数点以下まで表示する形にしました。
38	41～43	P41-43「4 丹波市における生涯学習の課題」、「本計画にて取り組む重要課題」について、アンケートの内容を拝見すると、「学びの場の企画づくりができる人材」、「得意分野があり講師になれる人材」が必要という声も比較的多いと思います。たんばまなびのマルシェのような、これまでの学んだ成果を生かして誰でもセンセイになれるイベントだけでは十分とはいえず人材が活躍できる環境整備をするために、いわゆる「学びの人材バンク／センセイ人材データベース」のような仕組みが、重要課題⑦として必要となってくるのではないのでしょうか。例：市民誰もが先生になれる制度（登録制、支援、広報）として「まちの先生バンク」の創設。	「学びの人材バンク／センセイ人材データベース」といった仕組みは課題に対する取組の1つと考えます。 P42の課題②に記載している「生涯学習の場や人材に関するポータル機能」がそれに該当し、基本方針1-施策③において取り組むこととなると考えます。
39	41	③、④のみ字下げで始まっていますが、①、②と統一した方が良いと思います。	他ページも含め、 見出しに対して複数の内容を列挙する場合→文頭に「・」「■」等を付け、字下げはしない。 見出しに対して単独の文章であるもの→段落を付ける。 という形に統一しています。
40	42	上記と同じ理由で、このページの表現も統一した方が良いと思います。	他ページも含め、 見出しに対して複数の内容を列挙する場合→文頭に「・」「■」等を付け、字下げはしない。 見出しに対して単独の文章であるもの→段落を付ける。 という形に統一しています。
41	45	4行目『生涯学習活動』は『生涯学習』のみで良いと思います。	「丹波市生涯学習活動に関するアンケート調査」といった固有名詞等の変更出来ない部分を除き、全て「生涯学習」に統一しました。
42	46	「やりたいこと」って？はコラムでは。	コラムとして位置付ける形としました。
43	46	「やらなければならないこと」がすべて「やりたいこと」になるわけではないので、全て「やりたいこと」と最後を締めくくるのは無理があると思います。 「やらなければならないこと」を通して、新たな可能性に気づくなどの“きっかけ”としての学びもこの計画では、大切にしているという表現が良いと思います。 さらにいうと、「やりたいことって何」という問いに対しての答えが最後にあり、わかりづらいので、構成的には ①❌りたいこととは（楽しいこと、得意なこと～、） ②☑の計画では「やらなければならないこと」という”きっかけ”も大切にしたいと思っている ③❌ぜならば、「やらなければならないこと」から「やりたいこと」になる可能性もあるから ④☑えば～（自分自身の糧や、誰かの助けに～、） が良いと思います。	ご意見いただいた内容と、このページを「コラム」として位置付けたことを踏まえて文章を再構成しました。 全体として論理的な文章ではなく、読み手への問いかけのニュアンスを含めた文章にしました。
44	48	「一緒にやってみる」の部分について、キーワードの背景である青に対して、文章の背景が赤なので、青系に統一するのが良いと思います。 また、以下共通しますが、黄色地に白文字は見にくいのでトーンを落とすか変更をお願いします。	文章の背景はなし（白）にしました。 「ワクワクしてつながる」が黄色地であったため、赤に変更しました。
45	49	基本方針の部分について、あえて色背景である必要はないと思います。色がついた文字で良いと思います。	色が付いた文字に変更しました。
46	50	基本施策の部分について、上記と同じ理由です。どちらかというと、『基本施策』を色背景に文字、①～はそれぞれ色文字で良いと思います。	「基本施策」の文字は口で囲み、各施策は色文字としました。

47	50	項目の色使いのためか、視認性が悪いように感じました。 薄い背景色や白文字を読みにくいと感じます。 また、フォントサイズ自体も小さいと感じます。	視認性の良い色を用い、フォントを拡大しました。
48	53～57	基本施策の具体例が「取組の一例」に留まって、既存施策しかないことが気になります。丹波市の現状と課題を踏まえた新しい計画のため、新たに取り組むことについても多少抽象的になったとしても、記入した方がいいのではと思います。 現在の案を見ると、既存施策しかないように読み取れます。 読み手が自分ごと化しやすくなる、期待できるような表現が必要だと感じます。	既に色掛けになっている部分で抽象的な内容を記載しているため、その下部にまた抽象的な内容を記載すると、結局何がしたいのか分からないものになるため、イメージしやすくなるよう既存事業を例示しています。 既存事業は施策の実現に向け、時勢に応じて改廃やリニューアルをする等、見直しを図っていく形となります。
49	55	P55「地域の隠れた人材を発掘したり、様々な生涯学習活動をされている個人・団体をつなげることで、学びや価値観を広げ、新たなことにチャレンジできる仲間をつくるための仕組みづくりを推進します」について ・ 本人は隠れているわけではないので、「隠れた」は不要ではないでしょうか。 ・ 「発掘したり・・・」とする場合は、その後も「・・・したり」が続かないと日本語の表現としておかしいと思います。 ・ 「学びや価値観を広げ・・・」の価値観とは、誰のどのような価値観でしょうか。ここでは価値観という表現は不要ではないでしょうか。 ・ 「チャレンジできる仲間をつくるための仕組みづくり・・・」は「つくる」と「づくり」が連続しており、読みにくいと感じます。	・ 「隠れた」を「地域における潜在的人材の発掘」に変更しました。 ・ 「発掘したり」を「発掘や」で接続しました。 ・ 「価値観」を削除しました。 ・ 「それぞれの学びを広げ、新たなことにチャレンジできる仕組みづくりを推進します。」に変更しました。
50	55	P55「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材の育成と活躍機会の促進」や「市民の学びを支える人材同士のネットワークづくり」について、例えば、「たんば社会教育人材登録制度」（社会教育士・社会教育主事・元教員・まちづくり経験者・社会教育リーダーなどのネットワーク化）等が必要なのではないでしょうか。	今後の生涯学習推進における検討事項と思いますが、具体的な事業として記載することは現時点では難しいと考えています。
51	57	P57の1.家庭・学校・地域を結ぶ「地域教育ネットワーク」の推進は、「家庭・学校・地域が連携した「地域教育ネットワーク」の推進 が良いのではないのでしょうか。	「結ぶ」という言葉が4/28の審議会でご意見として出ており、概ね賛成意見が出たためその表現を用いました。
52	57	②地域課題の解決に向けた市民や団体、企業などとの連携・協働 「それぞれが保有する人材や情報を共有し、・・・」は、「人材や活動の情報を共有し・・・」の方が良いのではと思いました。人材を保有するという言い方はあまりしないのではと、感じます。	「それぞれが保有する」を「それぞれが抱える」に変更しました。
53	59	推進体制図だけでは、市民には伝わらないのではと感じました。市民はどこにいるのでしょうか。 企業、NPO、市民活動団体、学校、自治会、自治協会、高校、大学、子ども園、アフタースクールなど、ステークホルダーはもっといるのではと思います。 計画で示されている ・ 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材 ・ 市民の学びを支える人材同士のネットワークづくり ・ 地域教育ネットワーク はどこに含まれるのでしょうか。	行政計画であるため主に行政の推進体制を示しており、この図において市民は、「市民の多様な生涯学習」の部分や「生涯学習関係団体・生涯学習関係審議会等」に含んでおり、また、全体を「生涯学習推進に関するネットワーク」としています。
		例：浜松市 	

		例：文科省	3/26開催の第7回生涯学習基本計画審議会時点の計画案ではこの図を掲載していましたが、削除しました。 国において議論がなされていることや社会教育人材の重要性については認識していますが、活躍促進を図る必要があるのは社会教育人材だけではないため、生涯学習基本計画として全般的に幅広い内容を記載する必要がある中、社会教育の要素ばかりが色濃く出ないようにバランスを取る必要があること、そしてこの図だけを見ると、“市があらゆる組織に社会教育人材を派遣してネットワークを構築する方針である”、“社会教育人材がいなければ丹波市の地域づくり・人づくりは出来ない”といった形に見えてしまうという意見が庁内で出たことが理由となります。
		例：学びの土壌と活動 ※学びの土壌を豊かにしていくことが、行政の役割だと思っています。	
54	59～60	推進体制からも、連携体制からも市民活動支援センターがなくなっていましたでしたが、連携体制には入れておく必要があるのではと思います。 市民活動支援センターは指定管理者制度によりNPO法人等の中間支援団体が運営しているということに、連携体制として意義があると思います。 また、図書館等の社会教育施設についても、ここに具体的に書かれることで、市民の生涯学習を支援する施設であることが伝わると思いますので、図書館等の社会教育施設の記載をお願いします。 どちらも、これまでの審議会でも出ている意見です。	市の内部組織同士が連携するのは当然のことであり（連携のさらなる強化は必要と考えます）、生涯学習が他分野に渡ることを考えると、市民活動支援センターや図書館のみではなく、ほぼ全ての部署や施設をここに列記する必要が生じます。 したがって、「連携体制」として項目立てするのであれば、外部の組織を掲載するのが適切であり市民にとっても分かりやすいと考えています。 また、過去の審議会において市民活動支援センターや図書館に関するご意見や議論はなされていますが、“その2点をこのページの「連携体制」に記載するか否か”といった観点での議論はなされていないため、現行の掲載内容としています。
55	60	社会教育士は、行政内に委嘱される社会教育主事と連携しながら、活動する存在です。社会教育主事についても、ここで触れる必要があると思います。 以前から議論をしてる、市長部局に社会教育主事を配置するということが、今後の検討事項として、計画の中で触れる必要があると思います。特に、丹波市のように生涯学習が市長部局に移管されている場合は、社会教育主事が必要だと思っています。	丹波市における社会教育は教育委員会の社会教育・文化財課が掌握しており、そこに専門職である社会教育主事を配置して庁内でノウハウや考え方の共有を図るという仕組みになっていること、そして人事案件でもあることから、今後の検討事項ではありますが計画書に記載するのはそぐわないと考えており、本件は庁内本部会議においても協議済です。 なお、社会教育主事として配置するか否かに関わらず、職員に社会教育主事講習の受講機会を与える等、社会教育の視点を持った職員の育成には努めていきます。
56	68	6/24の第2回審議会の部分だけ背景色が異なるので、背景の色を5行目以降の奇数行の色と統一した方が良いと思います。	同一色に統一しました。

57	70	7. 市が所管する主な生涯学習関連施設については、一部のみ掲載していることは理解していますが、以下も掲載する方がいいのではと感じました。掲載することにより、生涯学習に関連する施設について、市民の理解が進むと思うからです。 ・丹波竜化石工房ちーたんの館（たんば恐竜博物館） ・丹波市地域つながりセンター「ここから」 また、市民活動支援センターや男女共同参画センターについては、それぞれの目的が違うので、1つずつ独立して掲載した方がいいのではと思います。 市は所管していないが、以下も生涯学習施設と言えると思います。 ・自治協議会 各施設 ・丹波の森公苑 ・年輪の里 生涯学習という意味では、学校教育等も包含されるので、アフタースクール、認定こども園、小学校、中学校、高校、専門学校等も入れるべきだと思います。 施設をしっかりと明記ことで、市民が読んだ時に、自身と生涯学習の関係を視覚的に理解してもらえるのだと思います。	・市民活動支援センター、男女共同参画センターはそれぞれ独立して記載することとしました。 ・施設を全て列挙することは不可能であるため、最後に全般的な例示や、”生涯学習は「施設」がないと出来ないものではない”ということを含めたメッセージを追記しました。
----	----	--	---

②R7.6.6（金）12時時点の計画書案（今回資料）に対して

No	該当ページ	内容	計画書案への反映等
1	全体	「家庭・学校・地域」の表記の順番は。	これまでの審議会において様々なご意見を頂戴したことを踏まえた上で、「家庭・学校・地域」の順に整理しております。 本計画のイメージ図が示す自己実現に向けた学びから地域づくりに繋がっていく様子と照らし合わせた時に市民がイメージしやすく、説明もしやすいのがこの順番であると考えております。 なお、これらは優先順位ではなく並列であるという前提に立っています。
2	12	前回まで掲載されていた、以下の図書館に関する項目がまるまる削除されているのはなぜでしょうか。 社会教育法における公民館がない丹波市において、図書館は市民の生涯学習を支える重要な役割・機能を果たしているという、これまでの審議会の議論を踏まえて、掲載したものです。 （8）図書館の重要性の高まり 複雑化する地域課題 に対応するには生涯に渡って学び続けることが必要です。丹波市では中央図書館のほか各地域に5つの分館があることが大きな特徴であり、市民の読書活動の支援のほか、ニーズに応じた資料・情報の提供や地域住民の交流促進など多くの機能を有しているため、ますます重要性が高まっています。 また、図書館サポーターやこども司書が活躍しており、市民が学んだ成果を発揮する場としての役割も果たしています。	生涯学習基本計画として特定の部分に偏らないようバランスを取る必要があるためです。 庁内にて、何故図書館だけがクローズアップされるのかという意見が多数出ました。 なお、それらの意見は”図書館を掲載する必要はない”という論ではなく、”図書館は当然重要であるが、図書館だけではない”という考えに基づく意見となります。 これらを踏まえ、図書館を含めた「丹波市ならではの学びの場」という形で他の特色ある施設を含めて整理し直しました。
3	12	ふるさと意識を醸成することについて追加することは良いですが、市民の生涯学習はあらゆる分野にあるため、ふるさと醸成することだけではないです。また、「複雑化する地域課題に対応するには生涯に渡って学び続けることが必要ですが、学んだ成果を地域づくりにいかすには、まず「丹波市が好き」という想いを高める必要があります」と記載されいます。まず、「学び続けることが必要ですが・・・」は、あえて否定的な表現にする必要があるのでしょうか。 「です」と言い切ってよいと思います。また、丹波市を好きかどうかはそれぞれの主観であり、強制されるものではないので、表現を見直した方が良いのではと感じます。市民は、丹波市を好きになるために学び続けるわけではないです。	”丹波市を好きになるために学ぶ”ということではなく、”丹波市に対する愛着が地域づくりの原動力となる”という趣旨の文章となります。 趣旨が伝わるよう文章は今後、再考いたします。